

令和5年度連携事業実績一覧

	実施件数	備考
実施事業 (○)	28	
未実施事業 (×)	8	
計	36	

No.	大学_種類	事業名	大学担当部署	市担当部署	実施状況	事業内容	事業効果・成果	今後の課題等
1	インターンシップ	公共サービスのイノベーション人材育成事業	経営学部	市民室 出張所担当	×	出張所の窓口サービスをより良くするための調査・提案活動を行う。 学生が現地調査を行い、そこから生まれた課題に対し、改善案の提案・実施に向け取り組む。	—	—
2	インターンシップ	博物館学芸員課程 博物館実習	経営学部	文化遺産活用課	○	学芸員課程の実習生の受け入れ及び講師派遣。 ・いずみの国歴史館施設の見学（4月）（経営学科 井上准教授） ・いずみの国歴史館で学芸員課程の実習【資料の取扱い】（9月）（経営学科 井上准教授）	学生の感想として、学芸員の仕事に興味を持った、いずみの国歴史館に行ってみようという反応を得ることができた。	学芸員を目指す学生に有益な事業やいずみの国歴史館に学生に来てもらえるような事業の検討。
3	インターンシップ	教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事業 (学芸員課程履修学生の受け入れ及び講師派遣)	経営学部	久保忠記念美術館	○	特別陳列開催期間中に見学実習を行い、夏季に5日間博物館実習として学生を受け入れる。 講座への講師派遣。	4月21日に学生4名を受け入れ見学実習を行った。市民ギャラリーで美術館施設の紹介や、学生のキャリアプランの参考となるよう学芸員の職務について説明した。 5月31日に桃山学院大学で「図書館・博物館への誘い」講座の講師として授業を担当した。参加者は42名であった。 7月25日から29日の期間で4名の学生を受け入れ博物館実習を行い、そのうち桃山学院大学の学生は2名であった。大学周辺の博物館施設としての認知を高め、学芸員業務について詳しく説明をおこないキャリア形成の一助となった。	学芸員資格取得を目指す学生への講座を通して、若い世代のニーズなどの情報収集をおこない、桃山学院大学生や若い世代の果敢に進むような施策の検討。
4	インターンシップ	和泉シティプラザにおける桃山学院大学インターンシップ実習生の受け入れ	キャリアセンター	生涯学習推進室 生涯学習担当	×	生涯学習連携事業の一環で実施しているインターンシップ制度。 受入先は、生涯学習センター、図書館、保健福祉センター、男女共同参画センター、和泉市役所出張所のいずれか。	—	—
5	インターンシップ	桃山学院大学留学生インターンシップ実習生の受け入れ【国際交流事業】	国際センター	生涯学習推進室 生涯学習担当	×	留学生のインターンシップを受け入れ、市の国際化推進・国際交流事業を体験してもらう。	—	—
6	ボランティア	和泉ボランティア・市民活動センター「アイ・あいロビー」との連携事業	ボランティア活動支援室	広報・協働推進室 公民協働推進担当	○	子育て世代応援「ももやまキッズランド」として、桃山学院大学生の協働で、ボランティア団体も参加し、子育て世代の親子が楽しく交流できるイベントをアイ・あいロビーにて実施。 令和5年度は以下のとおり実施した。 ・6月24日(土) 参加者数：59名 内容：「マジック」「七夕がざりの工作」「缶バッジづくり」 ・10月28日(土) 参加者数：30名 内容：「絵本の読み聞かせ」「プラ板作り」「ミニカップケーキ作り」 ・12月9日(土) 参加者数：69名 内容：「人形劇」「クリスマス工作」「ハンカチ作り」	当日だけでなく企画から学生に参加してもらうことで、新たな交流が生まれ、協働推進が図られた。 また、子育て世代の親子が参加することで、普段「アイ・あいロビー」に來るすることが少ない若い世代の世代に活動内容を知ってもらうことができ、「アイ・あいロビー」の活性化につながった。 大学生の参加者数 ・6月24日(土) 15名 ・10月28日(土) 8名 ・12月9日(土) 9名	イベントの告知が足りず集客が芳しくないため、SNSの活用、エコーボール、いずみに告知の協力を依頼するなど、効果的な広報活動を検討する。
7	ボランティア	防犯ボランティア「桃ハト」	学生支援課	危機管理課	○	警察等とも協働し、防犯キャンペーン、交通事故防止キャンペーン、下校時見守り活動等のボランティア活動を行う。 【令和5年度の実施内容】 ・緑ヶ丘小学校の下校時見守り活動 ・防犯教室の実施 ・桃ハト各町パトロール活動 ・各種防犯キャンペーンへの参加 ・各種防犯会議等への参加	見守り活動やパトロール等を通して、危険箇所の注意喚起や防犯、交通事故の防止となっている。小学生の安全安心な登下校につながっている。	今後も継続して活動を行う。
8	ボランティア	徳太山クロスカントリー大会！N大阪和泉	地域連携課	生涯学習推進室 スポーツ振興担当	○	大会を通じた大学の広報活動支援、大会当日の受付や走行ランナーの安全を確保する陸上競技部のランナーボランティア。	大会を通じた大学の広報活動支援を行った。 大会当日は、10名のボランティアにプレゼント配布や走行ランナーの安全確保を担ってもらった。 スムーズかつ安全に大会を運営できた。	—
9	ボランティア	UUMIスポーツフェスティバル等のイベント	スポーツ教育センター	生涯学習推進室 スポーツ振興担当	×	大学のサブアリーナを会場として、年数回程度種目を変えながら若者男女問わずニュースポーツ教室を実施。	—	新型コロナウイルスの影響により実施に至らなかった経緯があるため、再度の実施に向けては調整・協議する必要がある。 また、大学の部活動との兼ね合いを考慮する必要がある。
10	ボランティア	公共図書館との連携事業	地域連携課	生涯学習推進室 生涯学習担当	○	市立図書館での事業を連携・参画して実施し、学生と地域の子どもたちや図書館利用が様々な形で触れ合う場の提供。（学生による絵本の読み聞かせなど） また、図書館司書課程を学ぶ学生に市立図書館の現場の仕事や取組みを具体的に伝える。	読み聞かせについては、大人35人、子ども68人、計103人（いずれも延べ人数）の参加者があり、本を通して子どもたちと学生が交流できる場を設けることができた。 また、図書館司書課程を学ぶ学生に対し、シティプラザ図書館において、令和5年8月21日～24日、26日の日程で、インターンシップを実施した。	他大学のインターンシップ受入れも行っているため、受入れ日程の調整が難しい場合がある。
11	桃山学生向け	法職オリエンテーション	法学部	人事課	○	【事業概要】 学生の学習意欲の向上を図り、和泉市への関心や市政への参加意欲を高めるとともに、将来の就職先として和泉市職員の志望者数の増加を図るため、市長・職員が市役所の仕事や和泉市について講義を行う。 【講義日程/対象者/講師】 ①令和5年6月12日(月) 11時00分～12時30分 法学部3回生/人事課職員 ②令和5年12月1日(金) 15時00分～16時30分 法学部1回生/人事課職員 ③令和5年12月8日(金) 15時00分～16時30分 法学部1回生/市長 【講義内容】 ①～②和泉市の概要、市の組織、市の役割と施策、採用試験の概要 ③和泉市の概要、市の役割と和泉市の施策、市長の仕事とは、学生へのメッセージ	将来の就職先として和泉市職員を志望し、実際に複数の学生が新規採用職員に申し込みをしてくれた。	—

令和5年度連携事業実績一覧

	実施件数	備考
実施事業 (○)	28	
未実施事業 (×)	8	
計	36	

No.	大学_種類	事業名	大学担当部署	市担当部署	実施状況	事業内容	事業効果・成果	今後の課題等
12	桃山学生向け	デートDV防止講演会	法学部	人権・男女参画室 人権・男女参画担当	○	国内外の男女共同参画政策の動向やSDGs（目標5ジェンダー平等）との関わりと、男女の人権尊重の推進の醸成につなげることを目的とし、学生や教職員、一般市民を対象に女性に対する暴力をなくす啓発事業の一環として、デートDVに対する正しい理解を深めるために講座を開催。（法学部は授業の一環で単位取得の位置づけ）	暴力の認知についてなど講義後のアンケート調査結果からもみて効果はあると考ええる。	小学校からのデートDV防止講座の依頼も増えつつあることから、事前打ち合わせ、授業前・後のアンケート・わかりやすい教材にするなどの工夫が必要である。
13	桃山学生向け	経営学特講—まちをビジネスする（観光ビジネス）	経営学部	産業振興室 商工観光担当	○	地域資源を活用した観光ビジネスの現状・発展の可能性について学ぶため、学生自らがフィールドワークにて得た情報を基に、和泉市の観光ビジネス案を作成し、プレゼンテーション等を行う。（経営学科の学生による約全15回の定期講義）	市内の観光施設をテーマに来訪者を増加させる施策の検討などについて、講義を行い、その中で市内観光施設を学生の皆さんに知ってもらうことができた。	引き続き、講義を行うこととしているが、和泉市内の観光施設だけでなく、東訪促進の観点から、食や農産物などにも注目していただけるように、調整を行っていく必要がある。
		経営学特講—まちをビジネスする（公共施設の経営）	経営学部	生涯学習推進室 生涯学習担当	×	公共施設の経営をビジネスという観点から捉え、利用者を増やすための手立てを学生に提案いただくもの。 「和泉シティラザの現状と課題」をテーマに市職員による課題を提示し、現地見学やグループディスカッションを行った後、学生にプレゼンテーションしてもらう。	—	—
14	桃山学生向け	消費者啓発事業	経済学部	くらしサポート課 消費生活センター	○	消費者被害の防止を目的とし、教員との連携により啓発講座を開催する。	大学生に広く周知することで消費者被害防止を行うとともに、大学生が認識を深めることにより、将来的な消費者被害防止につながる。	教員や消費生活相談員の交代等に伴う講座開催の継続性。
15	市民向け	いずみ市民大学教養学部における連携講義	エクステンション・センター	生涯学習推進室 生涯学習担当	○	いずみ市民大学教養学部にて、教員が座学による講義を提供する。	桃山学院大学の教員による講義を開催し（全12講座中6講座）、市民大学の目的である市民の学習意欲の醸成、活力ある地域社会の実現とまろづく活動を担う人材の育成につながることであった。	講座内容がマンネリ化しないよう、新しい内容を取り入れる必要があるが、教員の予定確保が難しい場合がある。
16	教育支援	教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事業 （学外研修：学校現場体験）	教職センター	学校教育室 教育センター	○	学生が、市立小中学校・義務教育学校・幼稚園・保育園・教育センター、生涯学習推進室等で、様々な教育活動の補助にあたる。学生は当該活動が学外研修として単位認定される。（令和元年度以降、実施なし。令和5年度も実施されないことは、大学側に確認済。変更がある場合は大学より連絡をいただく旨確認済（221209現在）） ※単位認定を行う形での事業実施は行わないが、単位認定に関わらない個別の取組みについては実施する。	令和元年度以降、実施なし。令和5年度、実施されないことは、大学側に確認済。変更がある場合は大学より連絡をいただく旨確認済。 ※単位認定を行う形での事業実施は行っていないが、単位認定に関わらない個別の取組みについては実施。	大学側の取組みが再開された場合、速やかに実施できるようにする。
17	教育支援	和泉市中学生生徒会サミット	教職センター	学校教育室 教育指導担当	○	事前に設定したテーマをもとにグループで討論会を実施する。 日時 令和5年8月25日（金） 場所 桃山学院大学 龍宮ホール 内容 各中学校の生徒会役員により、事前に設定したテーマでグループ討論（教職課程在籍の学生と意見交流）と全体討論 RSテーマ：「各校の取組みと課題について」	今年度で、13回目の開催となり、生徒会役員にとっての活動の場となっている。今回は「各校の取組みと課題について」というテーマで報告し、グループ討論や発表を行った。各校の取組みを知ることで、今後の取組みを考えると重要な機会となった。また、これも基本法の施行に伴い、行政によることも意見反映の意義について、周知を行った。	生徒会役員へのみの参加であるため、全体討論された内容等が共有されることが重要。また、会の実施形態、テーマについて、形骸化しないよう工夫が必要。
18	教育支援	アメリカンフットボール部地域支援事業 （フットボール指導）	アメリカンフットボール部	学校教育室 教育指導担当	○	アメリカンフットボール部による小学校へのフットボール指導（出前授業）や桃大グラウンドでの試合体験。	・小グループに1人の大学生が付き、よりきめ細やかな児童観察や指導を行うことができた。 ・フットボール部において、実践的な戦略に基づいて指導する児童もいた。 ・チーム力を高めるための掛け声やサイン、作戦などをその他の教育活動にも生かす児童もいた。	小学生に対して、学生が少し戸惑う様子も見受けられたが、時間と共に打ち解け、充実した活動となった。
19	教育支援	教育連携事業（PBL型学習プログラム授業）	大学統括部 BDLオフィス	学校教育室 教育センター	○	市立小中学校・義務教育学校において、大学教員、PBL学習コーディネーター、学生などと協働して、PBL型学習プログラム授業を実施する。	晋教中学校において大学教授や学生から生徒会の代表へ講義型のワークショップを実施した。成果として、体育祭のルールを決める際、生徒会が主体となり、みんなにとっての最適解となるようルールの一部を設定を行った。	桃尾中学校において、地域を教材とした【構尾学】の取組みにおいて、大学と連携をとれる検討している。
20	教育支援	和泉市交換学生派遣事業（ブルーミントン市への派遣中学生の事前研修）	国際センター	生涯学習推進室 生涯学習担当	○	堺市都市であるアメリカミネソタ州ブルーミントン市に派遣する市内中学生への事前研修の一環として、桃山学院大学の留学生を含む学生にご協力いただき、英語のみでの料理・食事体験を通じた交流会を実施する。	事前研修の一環として、桃山学院大学の留学生とともに、英語のみの会食に限定したお楽しみパーティーを開催。研修の目的である英語でのコミュニケーションに慣れることができた。	—
21	委員委嘱	和泉市地域福祉総合担職員配置促進事業 （CSWへのスーパーバイス）	社会学部 ソーシャルデザイン学科	福祉総務課	○	専門的見地から個別支援や地域支援の事例を通して、CSWの課題整理やアドバイスをいただき、CSWの取組みをより充実させる。	第1回（令和5年7月） 増進型福祉について小野教授より説明頂き、今年度のSVの進め方を確認した。 今年度は増進型福祉を地域実践で活かしているよう事例検討を重ねていくこととした。 第2回（令和5年10月） ケース検討を行い、増進型福祉の視点でグループワークを行い、理解を深めた。またケース記録の残し方について確認した。 第3回（令和5年12月） 前回のケースを継続して検討し、増進型福祉のワークシートを用いて、支援のアイデアを共有した。その後、新たなケースの検討を行った。 第4回（令和6年3月） ケース検討を行った後、令和5年度全体の振り返りを行い、これまで検討したケースの共有を行った。令和6年度の取組みについても話し合った。	CSWの経験年数が異なり、検討ケースによって理解に差が出ている。参加者全体の理解促進のため、膠着状態のケースではなく、動きが見込まれるケースを選定し、支援方法を共有していくことが必要。

令和5年度連携事業実績一覧

	実施件数	備考
実施事業 (○)	28	
未実施事業 (×)	8	
計	36	

No.	大学_種類	事業名	大学担当部署	市担当部署	実施状況	事業内容	事業効果・成果	今後の課題等
22	委員委員	社会的居場所づくりプロジェクト	社会学部 ソーシャルデザイン学科	福祉総務課	×	社会的に孤立状態にある人（ひきこもり等）の交流の場を社会学部教授の専門的なアドバイスと学生の柔軟なアイデアを活かし、CSWと協働して、社会資源の活用、連携の仕組みづくりを一緒に作り、社会的に孤立状態にある人の就労や生活状況の改善など、自立に向けた支援へ結びつける。	—	令和4年度に新型コロナウイルス感染症の影響により、学生を集めることができず実施に至らなかった経緯があり、再度学生を集めて事業実施が可能であるが、再度調整と協議が必要。
23	委員委員	認知症地域で支え“愛”事業	社会学部 ソーシャルデザイン学科	高齢介護室 高齢支援担当	○	「和泉市の認知症支え“愛”を考えるまちづくり連絡会」への参画。協議、認知症地域で支え“愛”事業に関して、研修等への参加依頼・専門的なアドバイスをいただく。	認知症の事業の中で、大学の学生や家族会の協力を得ることができ、川井先生からは事業を展開する上での貴重な意見を頂く事ができた。	学生と協同で行える事業の場を検討していく。
24	委員委員	和泉市生活困窮者自立支援事業	社会学部	くらしサポート課 生活相談係	○	専門的見地から相談支援、地域づくり等に関する助言及び連絡会議の外部アドバイザーとして、参加していただく。	連絡会議の内容を共有し、今後に向けたアドバイスをもらうことなどで、生活困窮者自立支援制度における支援だけでなく、広く認識を深めることができる。	法や制度など関連施策の理解と支援の形の整理を行うにあたっての助言をどこまで求めることができるかが課題である。
25	4つの約束	MOMOYAMAエクステンション・カレッジ	エクステンション・センター	所管部局	×	地域の円々の知的ニーズにこたえ、より充実した豊かな時間をともに過ごしていただくための社会人向け講座に対し、地場産業や産業・工業関係事業者との調整を行う。	—	—
26	4つの約束	使い捨てコンタクトコンタクトレンズ空ケースの回収事業	地域連携課	生活環境課	○	和泉市民が排出する使い捨てコンタクトレンズ空ケースを適正に回収処理し、ごみ減量及び適正処理の市民意識の高揚と資源の促進を図るため、令和3年2月2日より『いずみプラスチックごみゼロ宣言』の取り組みとして、桃山学院大学と協働連携を行い、HOYA株式会社アイケアカンパニーが提供する「アイシティecoプロジェクト」に参加している。	コンタクトレンズの空ケースはそのほとんどがポリプロピレンというリサイクルに適している素材で作られているが、その多くはごみとして廃棄されているリサイクル率は1%程度である。「いずみプラスチックごみゼロ宣言」を令和元年10月に宣言を契機に、空ケースのリサイクルを促進し、ひいてはごみの減量化に取り組んでいる。	「アイシティecoプロジェクト」の更なる普及と市民への周知方法。
27	その他	脱炭素先行地域実現に向けての連携	総務部 施設・管財課	環境保全課	○	環境省が推進する「脱炭素先行地域」の採択に向け、共同提案者として、本市における先行地域（一部エリアの民生部門の電力消費に伴うCO2排出量ゼロの地域）の検討への協力と、採択後の事業実施について連携する。	第4回 脱炭素先行地域に計画提案を行った。結果としては、不採択であったため、採択後の事業実施についての連携は行ってない。	—
28	その他	地域の魅力・顔づくりプロジェクト<和泉中央>	地域連携課	産業振興室 商工観光担当	○	「“えき”から広がる大阪の再生」をテーマに、和泉中央駅周辺の活性化を図るため、地域の課題を探り、ニーズにこたえたイベントを企画・実施するにあたり開催されている「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」に参加している。 【プロジェクト推進協議会会員団体】 桃山学院大学、エコー・いずみ話談会、桃岡西部市居住サービス、エコー・いずみ営業所、東北高遠鉄道線 運輸部、南海バス編 光明池営業所、桃山スタジアム販売、和泉中央店、認定こども園いずきのPreSchool	「“えき”から広がる大阪の再生」をテーマに、「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」に参加し、和泉中央駅周辺の活性化を図るため、和泉中央駅前にも、秋2回150株を超える花を植え、駅前のにぎやかりに貢献した。	地域の魅力顔づくりプロジェクトは開始（平成22年）より10年以上経過している。既にプロジェクトの土台はできていることから、令和8年度より大阪府・和泉市共にオブザーバーとなり民間主導でのプロジェクトの継続を目指し、調整を行う必要がある。
29	その他	租税教育推進の街いずみプロジェクト	未定	税務室 学校教育室	×	教育機関、泉大津税務署、市務担当及び市教育委員会が積極的連携し、次代を担う学生等に税の意義や役割を伝えることをめざし、小・中学校にて学生による租税教室等を実施する。	—	関係機関の調整でき次第、事業実施していく。
30	その他	成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業	総務部 経営企画課	政策企画室 IT活用推進担当	○	文部科学省が推進する「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」の採択に向け、DX/GXといった成長分野に関する地域の社会人向け研修事業への企画協力、産官学で構成する事業実施委員会の運営および採択後の事業実施について連携する。	南大阪地域や中小企業に適した内容にて、DX/GXに関する実践的な知識・スキルに加え、これらを組織内で展開するための思考法を習得可能な社会人向け研修事業を連携実施出来る。	令和5年度の成果を踏まえた横展開を行っていく必要がある。
31	その他	社会の中の法体験	法学部	選挙管理委員会事務局	○	法学部の授業として選挙に関する講義を行い、その後のグループワークに参加。（8月に実施）	若年層に対し、選挙に対する興味を喚起し、啓発を行うことが出来た。	継続的に実施するかどうかは大学側のカリキュラム等のこともあるため不透明となっている。 また、選挙が近い日程での実施については選挙管理委員会事務局で実施できないことも想定される。
32	その他	社会の中の法体験	法学部	都市政策室 都市政策担当	○	令和5年8月1日、景観行政団体への移行に伴い、学生の景観に対する意識醸成を目的に、景観に関する講義&グループワークを行った。（夏季集中講義）	グループワークでは、景観意識を高めるための取組みを考案させた。 事後学習で「自分たちの手でまちをきれいにしよう」との意識が高まったという報告があった。	引き続き、学生を含め市民の景観に対する意識醸成に向け、イベント等を実施する。
33	その他	春季走り方教室	地域連携課	生涯学習推進室 スポーツ振興担当	○	市内小学生を対象に開催。スポーツ推進委員が短距離走の走り方、トレーニングを小学生に教えるイベントを開催した。 陸上のトラックを借用し、3月に開催予定。	陸上のトラックを借用し、3月31日に春季走り方教室（スポーツ推進委員が短距離走の走り方、トレーニングを小学生に教えるイベント）を開催した。 当日は71人の市内小学生が参加して、短距離走の走り方を学んでもらうことができた。	—
34	その他	SNS等を利用した啓発資料の作成	経営学部	人権・男女参画室 人権・男女参画担当	○	令和4年に「和泉市インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例」が制定された。 根拠のない悪口や嫌がらせで、他人を傷つけることはあってはならないことであり、市民の誰もが加害者にも被害者にもならないよう、誰が見ても分かりやすく思いが通じる啓発資料作成に向け桃山学院大学生の意見を取り入れ（2023年度 秋学期 地域課題解決実践Aの授業の一環）、SNS等を利用した啓発資料の作成を学生が主体となり作成する。	啓発資料の周知方法等について検討する。	
35	ボランティア	青少年学習活動支援事業（冬のユースゼネレーション、ふれあいサタデー）	ボランティア活動支援室	生涯学習推進室 青少年センター	○	青少年の多様なニーズに対応し、様々な学習活動や交流を促進するため、主に市内在住・在学の小学生を対象とし、工作、実験、料理等の講習・講座を開催。桃山学院大学生による講習・講座のサポートなどのボランティア活動を実施。	参加者に年齢の近い大学生に講習・講座のサポートをしていただいたり、一緒に遊んでいた方がいいということで、参加者同士が打ち解け合い、楽しく交流することができた。	多くのボランティアに参加いただけるよう、周知方法その他検討が必要がある。